8　　飛びゆく蛍に託したこと　　　　　　　動詞⑤　ラ変・ナ変

むかし、男ありけり。人の娘のかしづく、Ⅰ「いかでこの男にアもの言はむ」と思ひけり。うち出でむＡこと難くやありけむ、もの病みになりて死ぬべき時に、Ⅱ「かくこそ思ひしか」と言ひけるを、親聞きつけて、泣く泣くイ告げたりければ、ウまどひ来たりけれど、死にければ、つれづれとこもり居りけり。

時は水無月のつごもり、Ｂいと暑き頃ほひに、宵は遊び居りて、夜ふけて、ややＣ涼しき風吹きけり。蛍たかく飛びあがる。この男、見ふせりＤて、

　Ⅲゆく蛍　雲のうへまでいぬべくは　秋風エ吹くと　雁に告げこせ

【本文チェック】

①　ア～エの動詞の、活用の種類・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　イ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　エ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

②□Ａ～Ｄの語の品詞を書きなさい。

　Ａ（　　　　　詞）　　Ｂ（　　　　　詞）　　Ｃ（　　　　　詞）

　Ｄ（　　　　　詞）

③せりふと和歌のⅠ～Ⅲは誰の発言・和歌かを、次から選んで書きなさい。

　【男・娘・親】

　Ⅰ（　　　）　　Ⅱ（　　　）　　Ⅲ（　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　難し〔２〕（　　　　し）

２　水無月〔５〕（　　　　　　）

３　宵〔５〕（　　　　　　）

４　雁〔７〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　いかで〔１〕　①どうして～か

　　　　　　　　　②どうして～か、いや～ない

　　　　　　　　　③（　　　　　　　　～　　　　　　　　）

２　まどひ来〔３〕（　　　　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　さのみやはとて、うち出ではべりぬるぞ。（竹取物語）

　　そのようにばかりしていられないと思って、（　　　）ているのです。

ア　和歌を朗詠し　　　イ　外に出ていっ

ウ　口に出して言っ　　エ　出家し

　（　　　）

２　月明ければ、いとよくありさま見ゆ。（土佐日記）

　　月が明るいので、（　　　）よく様子が見える。

ア　たいへん　　イ　すでに

ウ　しばらく　　エ　ずっと

　（　　　）

３　この姫君たちの琴弾き合はせて遊びたまへる、（源氏物語）

　　この姫君たちが琴を合奏して（　　　）なさる、

ア　詩歌を詠み合い　　イ　管弦の遊びをし

ウ　絵を描き合い　　　エ　人形遊びをし

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 往ぬ | 死ぬ | いまそがり | をり | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
| 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | 活用の行・種類 |

問５　次の傍線部の動詞の終止形と、文中での活用形を答えよ。

１　門はあれども扉もなし。（平家物語）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　死ぬる事を悲しみて、（方丈記）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　男、「都へいなむ。」といふ。（伊勢物語）

　　　終止形（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　水無月とは陰暦（旧暦）六月のことを指す。その異名の由来は「な」が「～の」という意味であるとして、水田に水を引く「水の月」であるという説、また梅雨が明けて水が無い月という意味であるという説がある。次の月の異名の読み方を現代仮名遣いのひらがなで記せ。また、陰暦何月を指すか、漢数字で答えよ。

　ア　弥生（　　　　　）（　　月）　　イ　神無月（　　　　　　）（　　月）

　ウ　師走（　　　　　）（　　月）　　エ　如月　（　　　　　　）（　　月）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ハ・四段・未然　イ＝ガ・下二段・連用

　　ウ＝カ・変格・連用　エ＝カ・四段・終止

②　Ａ＝名　Ｂ＝副　Ｃ＝形容　Ｄ＝助

③　Ⅰ＝娘　Ⅱ＝娘　Ⅲ＝男

問１　１＝かた　２＝みなづき　３＝よい　４＝かり

問２　１＝なんとかして～よう・たい　２＝あわてて来る

問３　１＝ウ　２＝ア　３＝イ

問４　（をり）　を ｜ ら ｜ り ｜ り ｜ る ｜ れ ｜ れ ｜ ラ（行変格活用）

　　　（いまそがり）　いまそが ｜ ら ｜ り ｜ り ｜ る ｜ れ ｜ れ ｜

ラ（行変格活用）

　　　（死ぬ）　死 ｜ な ｜ に ｜ ぬ ｜ ぬる ｜ ぬれ ｜ ね ｜ ナ（行変格活用）

　　　（往ぬ）　往 ｜ な ｜ に ｜ ぬ ｜ ぬる ｜ ぬれ ｜ ね ｜ ナ（行変格活用）

問５　１＝あり・已然形　２＝死ぬ・連体形　３＝いぬ・未然形

問６　ア＝やよい・三（月）　　イ＝かんなづき・十（月）

　　　ウ＝しわす・十二（月）　エ＝きさらぎ・二（月）

【現代語訳】

問３　１　そのようにばかりしていられないと思って、口に出して言っているのです。

　　　２　月が明るいので、たいへんよく様子が見える。

　　　３　この姫君たちが琴を合奏して管弦の遊びをしなさる、

問５　１　門はあるが扉もない。

　　　２　死ぬことを悲しんで、

　　　３　男は、「都へ行こう。」と言う。